



3つの共同体に支えられている自覚を持ち、
私たちも支える側としての自覚を持つことが大切です。

図11に示すように、家族共同体であれば、その形態が多様化する中にあって、「いのち」の連続の中で生きていることを見つめ直し、親子、夫婦などが互いに尊重し合うことです(四月号参照)。

地域共同体であれば、その地縁の希薄化が叫ばれる中で、まずは地域や隣人に無関心であるという姿勢を改め、互いに助け合う「共助」の関係を築いていくことです(八月号参照)。

国家共同体であれば、多くの先人の努力によってもたらされた恩恵に感謝し、それを発展させて次世代へ譲り渡していくことです(四月号参照)。

この三つの共同体が存在しているからこそ、私たちは安心して暮らせるのです。しかし、図11のように、足元にあるために気が向かず、深層であるほど目が届きにくい、あまり意識されません。当たり前前の存在であるがゆえに、その重要性に気づきにくいのです。

今、私たちはそれぞれの共同体の一員であることをあらためて自覚し、その維持、発展、継承に自分の立場や経験に応じて努めることが大切なのです。

第一部 基礎編
第三章 道德共同体をつくる
三、人類社会の基礎的共同体

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第1章から3章のまとめとして、私たちの生活を根底から支える3つの共同体を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

私たちを支える3つの共同体

——一員であることを自覚する

えしまけんいち
教育研究室研究員 江島顕一

私たちは日々、人とのつながりの中で生きていますが、それを共同体と言い換えることができます。しかし、共同体は私たちの生活を根底から支えているつながりであるにもかかわらず、普段はあまり意識されない傾向にあります。私たちの生きる土台ともいえる共同体のあり方をあらためて考えてみましょう。

モラロジーでは、人間の基礎的な共同体を、家族共同体、地域共同体、国家共同体の三つにとらえています。

家族共同体は、いのちを継承していく場であり、子供を育成する場です。

地域共同体は、人間が生まれ育つ場であり、他者との共存を図る場です。

国家共同体は、固有の伝統文化を持った集団を包み込む共同体です。

しかし、今日のわが国では、いずれの共同体もなんらかの問題や課題を抱えており、その機能や役割が十分に果たされていない状況にあります。

私たちの幸福の実現には、それぞれの共同体において、品性の三つの力の一つである「つながる力」を発揮させることが求められます(本誌六月号参照)。